



2026年11月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年10月9日
東

上場会社名 大阪有機化学工業株式会社 上場取引所
コード番号 4187 URL <https://www.ooc.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 安藤 昌幸
問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員管理本部長 (氏名) 本田 宗一 (TEL) 06-6264-5071
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年11月期第3四半期の連結業績(2025年12月1日～2026年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年11月期第3四半期	32,293	21.0	7,578	63.6	7,893	62.9	5,325	55.0
2025年11月期第3四半期	26,699	12.3	4,631	54.5	4,844	57.9	3,435	22.1

(注) 包括利益 2026年11月期第3四半期 7,208百万円(90.0%) 2025年11月期第3四半期 3,792百万円(30.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年11月期第3四半期	261.86	—
2025年11月期第3四半期	167.63	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年11月期第3四半期	68,284	56,144	80.6
2025年11月期	63,713	50,536	78.0

(参考) 自己資本 2026年11月期第3四半期 55,043百万円 2025年11月期 49,700百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年11月期	—	35.00	—	40.00	75.00
2026年11月期	—	43.00	—	—	—
2026年11月期(予想)	—	—	—	50.00	93.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 2026年11月期の連結業績予想(2025年12月1日～2026年11月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	42,500	17.2	9,300	50.3	9,600	46.4	6,600	△4.2

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 有
新規 1社(社名) Visnex Chemicals Corporation 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2026年11月期3Q	22,410,038株	2025年11月期	22,410,038株
② 期末自己株式数	2026年11月期3Q	2,070,794株	2025年11月期	2,072,767株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2026年11月期3Q	20,338,457株	2025年11月期3Q	20,493,138株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は : 無
監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、現時点で得られた情報に基づいて算定しておりますが、多分に不確実な要素を含んでおります。従いまして、実際の業績は、業況の変化などにより業績予想と異なる場合があります。なお、業績予想に関する事項については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況	2
(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	7
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	8
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	10

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果を背景に、緩やかな回復の動きがみられました。個人消費および設備投資には持ち直しの動きがみられ、生産はおおむね横ばいで推移しております。また、企業収益は改善しているものの、中東情勢や自然災害の影響、金融資本市場の変動、原材料・エネルギー価格および為替の動向により、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような状況の下で当社グループは、2024年11月期より2030年11月期までの中期経営計画Progress & Development 2030 (P&D 2030) に取り組んでおります。P&D 2030では、当社グループの経営理念のもと、「特殊アクリル酸エステルのリレーディングカンパニーとして、グローバル市場に価値を提供する」という経営ビジョンを掲げ、ESGに配慮したサステナブル経営を推進し、企業価値の向上と持続的成長を目指してまいります。

化成事業におきましては、製品の統廃合や生産効率の改善等により利益率の向上に努めるとともに、バイオマス由来等の環境に配慮した製品の拡販に取り組んでまいりました。電子材料事業におきましては、グローバルなAI関連需要の拡大等を背景に半導体関連市場の中長期的な成長が見込まれるなか、最先端半導体材料の開発を加速するとともに、フォトレジスト材料については新規用途への展開を進めてまいりました。機能化学品事業におきましては、化粧品原料の海外展開の強化や高純度特殊溶剤の拡販に注力してまいりました。また、海外拠点を通じた新規顧客の獲得および新市場の開拓により、海外販売体制の強化に取り組んでおります。さらに、今後の半導体市場の成長を見据え、酒田工場における先端半導体材料の新規設備建設計画を進めており、将来的な生産能力の拡充および安定供給体制の強化に取り組んでおります。加えて、株式会社三宝化学研究所との資本業務提携を通じて、両社の有する高純度化技術や開発・製造基盤を相互に活用し、半導体・電子材料分野における開発力および顧客提案力の強化を進めております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は322億9千3百万円（前年同四半期比21.0%増）、営業利益は75億7千8百万円（前年同四半期比63.6%増）、経常利益は78億9千3百万円（前年同四半期比62.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は53億2千5百万円（前年同四半期比55.0%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。（セグメント間取引を含んでおりません。）

①化成事業

化成事業におきましては、アクリル酸エステルグループでは、自動車用等の塗料向けの販売は好調に推移し、光学用途等の粘着剤向けの販売は堅調に推移いたしました。一方、UVインクジェット用を含むインク向けの販売は横ばいで推移いたしました。また、メタクリル酸エステルグループの販売は横ばいで推移いたしました。この結果、売上高は110億5千8百万円（前年同四半期比11.5%増）、販売価格の適正化および製品構成の改善により、セグメント利益は24億6千1百万円（前年同四半期比49.4%増）となりました。

②電子材料事業

電子材料事業におきましては、半導体材料グループでは、主力であるArFレジスト用原料および最先端のEUVレジスト用原料の販売が大幅に増加し、グループ全体の売上高も大幅に増加いたしました。表示材料グループの販売は減少いたしました。また、その他グループの販売は好調に推移いたしました。この結果、売上高は155億7千万円（前年同四半期比27.0%増）、セグメント利益は36億8百万円（前年同四半期比71.2%増）となりました。

③機能化学品事業

機能化学品事業におきましては、化粧品原料グループの販売は好調に推移し、機能材料グループの販売は大幅に増加いたしました。また、子会社における高純度特殊溶剤の販売も好調に推移いたしました。この結果、売上高は56億6千3百万円（前年同四半期比25.2%増）、セグメント利益は15億7千7百万円（前年同四半期比78.1%増）となりました。

(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比べて45億7千万円増加し、682億8千4百万円となりました。これは、主に現金及び預金の増加5億8千4百万円、売掛金及び契約資産の増加12億3千4百万円、有形固定資産の減少11億9千8百万円及び保有株式の株価上昇等による投資有価証券の増加23億4千5百万円などによるものです。

当第3四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末と比べて10億3千7百万円減少し、121億3千9百万円となりました。これは、主に未払法人税等の減少12億8百万円、長期借入金の減少3億5千5百万円及び繰延税金負債の増加7億6千7百万円などによるものです。

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末と比べて56億8百万円増加し、561億4千4百万円となりました。これは、主に利益剰余金の増加36億3千7百万円及びその他有価証券評価差額金の増加16億円などによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年7月2日に公表いたしました連結業績予想を修正いたしました。なお、修正内容の詳細につきましては、本日(2026年10月9日)公表いたしました「業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2026年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	15,922,597	16,507,053
売掛金及び契約資産	11,579,782	12,814,508
電子記録債権	449,027	336,635
製品	4,711,762	4,926,230
仕掛品	2,119,445	2,904,810
原材料及び貯蔵品	2,326,098	2,540,805
その他	717,767	928,654
貸倒引当金	△20,403	△22,184
流動資産合計	37,806,078	40,936,514
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	7,846,424	7,513,227
機械装置及び運搬具（純額）	6,042,474	5,324,410
土地	2,172,476	2,163,353
建設仮勘定	325,787	198,364
その他（純額）	441,508	430,671
有形固定資産合計	16,828,670	15,630,028
無形固定資産		
のれん	3,333	—
その他	35,837	31,586
無形固定資産合計	39,170	31,586
投資その他の資産		
投資有価証券	7,544,551	9,889,653
関係会社株式	298,567	575,748
退職給付に係る資産	1,058,963	1,091,051
繰延税金資産	3,297	880
その他	134,426	128,836
投資その他の資産合計	9,039,805	11,686,170
固定資産合計	25,907,647	27,347,785
資産合計	63,713,725	68,284,300

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2026年8月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	5,775,037	5,885,602
1年内返済予定の長期借入金	534,082	480,149
未払金	1,914,021	1,100,824
未払法人税等	2,117,602	908,660
賞与引当金	—	474,690
役員賞与引当金	63,970	46,106
その他	813,791	831,478
流動負債合計	11,218,505	9,727,512
固定負債		
長期借入金	803,841	448,659
繰延税金負債	1,014,083	1,781,802
役員株式給付引当金	26,780	76,091
退職給付に係る負債	499	542
その他	113,513	104,945
固定負債合計	1,958,717	2,412,039
負債合計	13,177,222	12,139,552
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,600,295	3,600,295
資本剰余金	3,513,349	3,517,469
利益剰余金	44,177,940	47,815,767
自己株式	△5,326,546	△5,321,523
株主資本合計	45,965,038	49,612,010
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,140,180	4,740,987
為替換算調整勘定	186,810	298,373
退職給付に係る調整累計額	408,689	392,072
その他の包括利益累計額合計	3,735,680	5,431,433
非支配株主持分	835,783	1,101,304
純資産合計	50,536,502	56,144,747
負債純資産合計	63,713,725	68,284,300

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年12月1日 至 2025年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年12月1日 至 2026年8月31日)
売上高	26,699,214	32,293,653
売上原価	18,161,361	20,530,840
売上総利益	8,537,853	11,762,813
販売費及び一般管理費	3,906,448	4,184,013
営業利益	4,631,404	7,578,800
営業外収益		
受取利息	6,130	12,427
受取配当金	128,213	141,914
為替差益	—	78,291
受取保険金	101,846	—
その他	56,522	87,413
営業外収益合計	292,712	320,047
営業外費用		
支払利息	5,994	3,131
為替差損	69,553	—
自己株式取得費用	2,400	—
投資事業組合運用損	1,213	1,863
その他	0	163
営業外費用合計	79,162	5,159
経常利益	4,844,955	7,893,688
特別利益		
固定資産売却益	—	463
投資有価証券売却益	27,722	—
特別利益合計	27,722	463
特別損失		
固定資産除却損	975	5,938
減損損失	—	8,489
特別損失合計	975	14,428
税金等調整前四半期純利益	4,871,701	7,879,722
法人税、住民税及び事業税	1,404,245	2,339,035
法人税等調整額	△69,028	37,241
法人税等合計	1,335,217	2,376,277
四半期純利益	3,536,484	5,503,444
非支配株主に帰属する四半期純利益	101,302	177,539
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,435,182	5,325,905

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年12月1日 至 2025年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年12月1日 至 2026年8月31日)
四半期純利益	3,536,484	5,503,444
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	288,659	1,606,237
為替換算調整勘定	△20,956	115,896
退職給付に係る調整額	△11,196	△17,036
その他の包括利益合計	256,505	1,705,097
四半期包括利益	3,792,989	7,208,542
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,684,591	7,021,659
非支配株主に係る四半期包括利益	108,398	186,883

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年12月1日 至 2025年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年12月1日 至 2026年8月31日)
減価償却費	2,226,685千円	2,021,897千円
のれんの償却額	14,999千円	3,333千円

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

前連結会計年度において非連結子会社であった Visnex Chemicals Corporation は重要性が増したため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

当第3四半期連結会計期間において、株式会社三宝化学研究所の株式を取得したことに伴い、同社を持分法適用の範囲に含めております。なお、当第3四半期連結会計期間末において、取得原価の配分が完了していないため、暫定的な会計処理を行っております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

Ⅰ. 前第3四半期連結累計期間(自 2024年12月1日 至 2025年8月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	化成品 事業	電子材料 事業	機能化学品 事業	計		
売上高						
日本	4,853,515	10,462,468	3,482,549	18,798,533	—	18,798,533
アジア・豪州	3,669,219	1,708,950	870,500	6,248,669	—	6,248,669
米州	835,501	86,509	154,986	1,076,997	—	1,076,997
欧州	557,622	2,131	15,259	575,013	—	575,013
顧客との契約から生じる収益	9,915,858	12,260,059	4,523,296	26,699,214	—	26,699,214
その他の収益	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	9,915,858	12,260,059	4,523,296	26,699,214	—	26,699,214
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	354,914	354,914	△354,914	—
計	9,915,858	12,260,059	4,878,211	27,054,129	△354,914	26,699,214
セグメント利益	1,647,669	2,107,829	885,652	4,641,151	△9,747	4,631,404

(注) 1 セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ. 当第3四半期連結累計期間(自 2025年12月1日 至 2026年8月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	化成品 事業	電子材料 事業	機能化学品 事業	計		
売上高						
日本	5,280,175	13,361,173	4,320,547	22,961,896	—	22,961,896
アジア・豪州	4,207,740	2,191,824	1,232,701	7,632,265	—	7,632,265
米州	995,387	16,432	95,692	1,107,512	—	1,107,512
欧州	575,586	1,440	14,952	591,978	—	591,978
顧客との契約から生じる収益	11,058,889	15,570,870	5,663,893	32,293,653	—	32,293,653
その他の収益	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	11,058,889	15,570,870	5,663,893	32,293,653	—	32,293,653
セグメント間の内部売上高 又は振替高	288	—	525,527	525,816	△525,816	—
計	11,059,177	15,570,870	6,189,420	32,819,469	△525,816	32,293,653
セグメント利益	2,461,326	3,608,627	1,577,061	7,647,014	△68,214	7,578,800

(注) 1 セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

(重要な設備投資)

当社は、2025年12月に公表いたしました酒田工場（山形県飽海郡遊佐町）における半導体関連材料の新規設備建設につきまして、本日（2026年10月9日）開催の取締役会において計画の一部変更を決議いたしました。

1. 変更の内容

変更箇所には下線を付しております。

(変更前)

① 対象商品	半導体関連材料
② 所在地	当社 酒田工場（山形県飽海郡遊佐町藤崎字茂り松157-23）
③ 着工時期/完成時期	<u>2026</u> 年着工 / <u>2028</u> 年完成（予定）
④ 設備投資額	約 <u>100</u> 億円

(変更後)

① 対象商品	半導体関連材料
② 所在地	当社 酒田工場（山形県飽海郡遊佐町藤崎字茂り松157-23）
③ 着工時期/完成時期	<u>2027</u> 年着工 / <u>2029</u> 年完成（予定）
④ 設備投資額	約 <u>200</u> 億円

2. 変更の理由

建設資材価格および設備機器価格の上昇に加え、直近の需要シミュレーションに基づき生産能力の拡充と高純度化技術の向上を目的として導入設備の内容を見直した結果、投資予定額が当初計画を上回る見込みとなったためであります。

また、今回の導入設備内容の変更に伴って工事スケジュールを見直した結果、着工時期および完成時期も変更しております。

3. 背景と投資の目的

AIや高性能デバイスの進展により、半導体市場は今後も成長が見込まれており、微細化・高集積化に対応する材料の開発と、安定した供給体制の構築は一層重要性を増しています。

当社は、中期経営計画「Progress & Development 2030」（2024年11月期～2030年11月期）に基づき、中量実験室の建設や約80億円を投じた生産設備の稼働を通じて、先端半導体用材料の開発・生産体制を強化してきました。

今回の新設備計画では、さらなる生産能力の拡充と高純度化技術の向上を図り、先端半導体用材料の市場シェア拡大と事業発展を目指します。また、金沢工場・酒田工場の2拠点生産体制により、BCP（事業継続計画）を確実に実現し、安定した供給体制の構築を推進します。

4. 今後の見通し

本投資による新規設備は2029年完成予定のため、当期の連結業績に与える影響は軽微です。今後開示すべき事象が発生した場合は速やかにお知らせいたします。